

I 全般的な財務状況の説明

1) 資金収支計算書

資金収支計算書とは、学校法人の各年度における諸活動をお金の動きに着目して表したものです。教育研究に対する資金の使途（資金支出）とこれに対する資金の調達（資金収入）が明らかにされています。

平成 28 年度における主な施設・設備関係支出として、新潟医療福祉大学において将来計画目標としている「在籍学生 5, 0 0 0 名」に対応することを主な目的とする図書館など既存校舎の改修工事を行なっております。

上述の施設設備の整備の他、駐車場の拡張などを目的とした土地の取得や次年度完成予定の第 9 研究実習棟の設計監理料を支出しておりますが、次年度繰越支払資金として 5,751 百万円を保有しております。これは昨年度と比して 9.6%の増加となっており資金面では順調な推移を維持しているといえます。

2) 事業活動収支計算書

事業活動収支計算書とは、経営状況を表すものであり学校法人会計基準において「当該会計年度の教育活動、教育活動以外および臨時的な収支ならびに基本金組入額を表示し均衡の状態を明らかにするために行う」と規定されております。

平成 28 年度は、新潟医療福祉大学における学科新設（平成 26 年度：視機能科学科）および既存学科定員増（平成 25 年度：健康スポーツ学科、平成 27 年度：健康スポーツ学科、平成 28 年度：理学療法学科）による学生生徒等納付金の増加を要因として教育活動収入計が 68 億円を超えました。

基本金組入の影響によって当年度収支差額はマイナスとなっておりますが、基本金組入前当年度収支差額は問題のない水準を維持しております。

3. 貸借対照表

貸借対照表とは、一定時点(3 月末現在)の財産の状況を明らかにする計算書類であり、教育研究活動を行うために必要となる資産の保有状況とそれらの資産の取得源泉である負債、基本金および消費収支差額を対照して、その充足状態を計る仕組みです。

平成 28 年度は、大きな設備投資がなかったことから、資産規模は昨年度比 150 百万円、0.5%の微増となりました。負債は昨年度比 606 百万円、8%減、現金預金は昨年度比 506 百万円、9.6%の増加となっていることから財務状況は良好な状態であるといえます。

なお、流動負債のうち、1,064 百万円は新入生からの授業料等の前受金であり、新年度に

は学生生徒等納付金として収入に振り替えたうえで教育研究活動の費用に充てられていくものです。学校法人会計基準により負債へ算入していますが、弁済義務のあるものではありません。

4) 収益事業

平成 28 年度の不動産賃貸は、年度の後半に学生を主な対象とする書店に学内施設の一部賃貸を開始したことから昨年度より収入および学校会計への繰入額のいずれも昨年度を上回ることができました。

このことは、本収益事業が学校に対して安定的貢献を図れているものといえます。

なお、収益事業に関する会計は、私立学校法で「学校の経営に関する会計から区分し、特別の会計として経理しなければならない」とされており、一般の企業会計同様に処理しております。また新潟医療福祉大学および事業創造大学院大学の各建物内の賃貸物件は、重要性を鑑みて損益状況のみを本収益事業会計の中で処理をし、資産については学校法人会計に含めて表示しています。